

被災地に継続して足を運んでいて最近特に思いを強くすることがあります。それは、復興のスピードに物凄い格差があることです。街中の変化に比べ郡部は全く変化がないと思えるほど手つかずのままなのです。

多分、2～3年経っても牡鹿半島のような郡部の町並みは復興計画の目途も立たず、たとえ立ったとしても個人の経済力に限度があり家屋やお店が立ち並ぶ姿を見ることは難しいと思うのです。現地の皆様は仮設の生活が長くなり精神的に辛くなることが増えてくると思います。今以上に皆様の心に寄り添うことが必要であり、絆を大切に活動を持続して計画していきたいと思ひます。

夢新聞を読んでいただいている皆様に今まで以上の応援及び支援をお願いいたします。第6号では平成23年12月27日に石巻市牡鹿地区にカレンダーを届けながら次の活動の調整をしてきた内容を紹介いたします。



龍 JIN マスコット

12/27(土) 石巻市牡鹿地区にカレンダーを届けてきました

毎年、地元にカレンダーを配っている商店も企業もほとんど流出し、カレンダーが届かないという声を聞き、龍 JIN メンバーや関係者に働きかけ那須烏山市の広報誌にも協力依頼を掲載し、集まったカレンダーを小堀夫婦で届けてきました。

牡鹿半島の5地区を廻って来ましたが、下の写真の通りどの地区からも大歓迎されました。電話で最少希望数を聞いていましたが倍以上お渡しすることができ、皆様の笑顔を見て正直、ほっとしました。カレンダーが無いという声を聞いてからかなり時間が経過しており、もういらないと言われるのではないかと考えたからです。

① 荻浜仮設住宅(85 部)



荻浜地区豊嶋区長、江刺さん他

② 鮎川小仮設住宅(120 部)



鮎川小仮設古内区長



宮城県石巻市牡鹿半島

③鮎川小周辺地区分

代表の阿部さんへカレンダー50部と鶴亀だるま及び神秘の亀をお渡ししました。
・鮎川小周辺地区には何カ所も小さな仮設住宅があります。昨年の11月19日、第4弾バスボランティア活動として、これらの仮設の皆様を対象に歌声教室やストレッチ教室などを実施しました。その時、自作の毛糸のマフラーなどをプレゼントした80歳以上のおばあちゃんたちのグループである「烏山いきがいの郷」の皆様が、今度は縁起物の鶴亀だるまさん20セット及び神秘の亀を作ってくれましたが、これを楽しく説明しながらお渡ししました。

④泊浜地区(100部)



泊浜の松川区長
・11月19日に炊き出しを実施した泊浜集会所
・届けた次の日に集会を予定していてグッドタイミングと喜んでくださいました

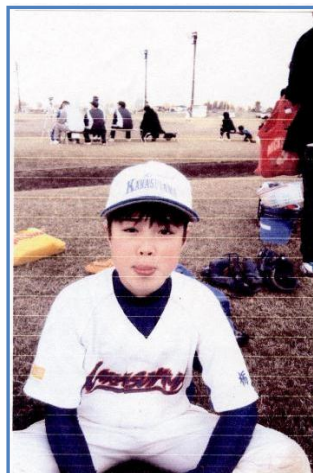


鮎川周辺代表の阿部さんへ
・厚紙で作成した鶴亀だるまと神秘の亀をお渡ししました

⑤泊浜地区 平塚さんグループへ

野球部の子どもたちから約10部と手紙
(平塚さんの大感動写真がなくてごめんなさい)

実は、平塚さんの奥さんから売るほどカレンダーがあるよと言われましたが、子どもたちが自分の小遣いで買ったカレンダーに一言メッセージを書き入れたものと、自分の写真を添付した被災地の皆さん宛てに書いた手紙をお渡ししたらとても喜び、しばらく言葉が出ませんでした。



寒くなりましたね、いかがお過ごしですか
おかげさまでありがとうございました。
烏山クラブメンバーの全員の前でお母さんたちが読んでくれました。みんなうれしそうに聞いていました。
お米を食べていただきようこんでくださってよかったです。ありがとうございました。
このあいだこの冬最期の試合をやりました。結果は負けてしまいました。でも一生けん命プレーをしたので悔いはないです。
これからますます寒さがきびしくなきますがお体に気をつけてください。

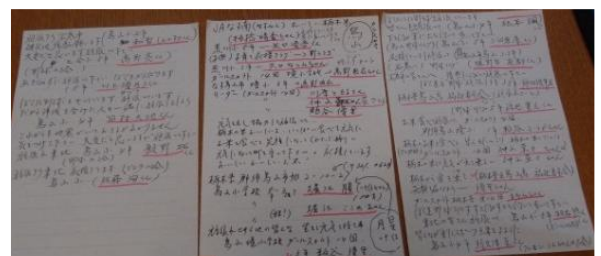
平塚さん宛て少年野球チームキャプテンの写真付手紙

形あるカレンダーを届けましたが心のカレンダーに絶句してくれた平塚さんを見て胸が熱くなりました。子どもたちの力には元気の源があるのです。

私が子どもたちの親善大使になり、多くの子どもたちの写真付手紙を届けました。

⑥その他

荻浜地区の阿部さんにお会いしました。子どもたちに思いを込めた手紙をくれた人です。



子どもたちのメッセージを書きとめたメモを説明する阿部さん

子どもたちの応援メッセージを書きとめ、赤線を入れ仮設の壁に貼ってありました。

「私にとって元気の源です」と言われた時には感極まってしまいました。

平成24年1月28日に、子どもたちが荻浜地区に来て交流活動をしたいとの要望があり計画中ですと伝えました。阿部さんから「皆さんと早く会いたいです」と伝えてくださいと伝言されました。

【1月28日子どもたちと牡鹿地区の皆様との交流活動の調整】

石巻市牡鹿地区の被災地の皆さんに栃木の米を贈った時に絵付の応援メッセージを書いたことが縁となり、被災地のおじいちゃんやおばあちゃんと手紙での交流活動が始まり、現地に行って直接お礼を言いたいという声が子どもたちと親御さんから上がりました。活動を具体化するために牡鹿地区の関係者と調整しました。

地区の施設がほとんど崩壊しているために数十名単位で集まれる会場探しが大変でしたが荻浜中体育館を借りることができました。校長先生を始め職員がとても協力的で嬉しくなりました。荻浜中の先生や生徒達も一緒になって活動することにも同意してくれました。参加人数や炊き出し関係、それに暖をとる方法などを話し合いこれなら成功するなというレベルまで調整することができ安心しました。

実は荻浜中体育館は、何と私が訪れた12月27日にやっと電気が通じ照明やコンセントが使えるようになったそうで、当日は工事中でした。また音響設備は流出、入口ドアの窓ガラスは壊れたままでブルーシートが貼り付けてある状態でした。窓ガラスには津波被害の水位がはっきりと分かる線が一周取り囲むように付いており汚れがひどく、心が痛みました。

「みんなで何度も大掃除をして使えるようになりました」と説明されましたが、床の溝等には砂がぎっしり残っていました。

このような状態で頑張っている児童生徒達を応援しなければと思いました。



綺麗に掃除してある荻浜中体育館

追記:

12月27日当日、牡鹿地区の中心地である鮎川地区を通った時、吹雪いてきましたが、数カ所で写真の通りガレキ処理のボランティア活動を行っているのです。牡鹿ボランティアセンターに立ち寄り活動予定を確認しました。手つかずの場所がたくさん残っており、当面続けなければならない状態であり、ボランティアさんが来てくれる限り続けたいと話してくれました。大晦日と正月三が日は中止するがそれ以外は実施したいと説明され頭が下がりました。



雪の中でのガレキ作業、鮎川地区で

この様子を全国に伝えなければならないと思いながら帰途に就きました。

なお、平成24年1月28日実施した子どもたちと被災地の皆様との心の交流活動については次回第7号で紹介いたします。